

L' hôpital Bicê tre 産婦人科訪問（フランスの無痛分娩について）

先日東京都保健医療局の方々から、フランスの産婦人科病院の視察依頼がきました。無痛分娩実施率が高いフランスの医療機関を視察して、東京都の無痛分娩に関する事業の検討・実施に活用したいとのことでした。

そこで10月7日 sage-femme 助産師の中村ドゥメス芹菜さんのご厚意により、中村さんの職場であるL' hôpital Bicê tre 病院の産婦人科を訪問しました。スタッフのみなさんはとても親切で快く迎えて下さり、いろんな箇所を見学させていただきました。



東京都保健医療局の方々の話によると、無痛分娩率は全国平均で8、6%、東京近郊で26%。外国と比べて日本で普及していない理由として、お腹を痛めないで生んだこどもは愛情がわかないという思い込みがあること、そして、無痛分娩だと自己負担である場合が多く、普通分娩よりも10万以上費用がかかる。また無痛分娩は病院よりクリニックで施行されることが多く、麻酔の技術の質のばらつきが懸念されているそうです。

対してフランスは、中村さん曰く、L' hôpital Bicêtre の無痛分娩率は90%！無痛分娩でもSSから100%カバーされる。避けられる痛みを避けるのは当然、レイプ被害者や未成年の出産の無痛分娩時は、より一層細心の注意を払って痛みを軽減してあげる。体質や持病のせいで無痛分娩ができない人のために、催眠療法、鍼灸などの資格を持っている助産婦さんもいる。

無痛分娩とは関係ないけれど印象的だったのは、フランスでは赤ちゃんポストはないが、自宅で勝手に出産するのを防ぐために、Xという匿名で無料で出産ができる（子どもは里親に出せる）こと。また、病院に、産後うつで育てられない1歳までの赤ちゃんを預かる場所や、DVにあっている妊婦さんが避難できる場所があること。

ちなみにフランス助産師 sage-femme 資格は医療系の大学で5年間の専門教育を受けるそうです。最初の年は医学部での基礎教育を受け、その後、助産学専攻に進む。助産師は医師に準じた医療行為を行う権限があり、低リスクの妊婦に対しては助産師が独立して妊娠中の検診から分娩、産後ケアまで一貫して対応している。今日のビジットで見た医師はインターンの一人だけ、あとは30名近くの助産婦さんたちが生き生きと働いておられて頼もしかったです✧

中村さん、急なお願いでありながら、素敵な職場を見せてくださりありがとうございました。日本でも痛みのない出産方法を自由に選べる医療体制になりますように。

折口志都

JAPANESE KENKO SUPPORT

邦人健康サポートの会（日本語の話せる医療従事者ネットワーク）

メールアドレス：kenko-support@nihonjinkai.fr

ホームページ：https://zaifutsunihonjinkai.fr/activities/kenko-support/

フェイスブック：https://www.facebook.com/kenkosupport.fr/